

東邦大学医療センター佐倉病院臨床研修プログラム

佐倉・選択専攻科目

臨床生理機能部（1ヶ月）

1 目的と特徴G I O

目的：チーム医療の中で医師が検査部の技術と検査内容を理解することは不可欠である。このプログラムでは一人前の臨床医として必要な生理機能検査の基本技術を習得しその意義を理解するのみならず、指導医を介して関係診療科で必須である診療能力を身につける。

特徴：単なる臨床生理機能検査技術を学ぶのみでなく循環器科を主とした診療にも関わることによりチーム医療の大切さを学び総合力を養うことができる。このような実践的で開かれたプログラムは優秀な臨床医を育てるのに貢献できると考えられる。

2 プログラム管理運営体制

プログラムの管理運営は指導責任者である東邦大学医療センター佐倉病院臨床生理機能検査部長および指導医によって行われるが、内容や運営に問題が生じた際には佐倉病院卒後臨床研修管理委員会と検討を行い、指導医と合議の上実際の臨床指導にフィードバックさせる。

3 教育課程

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻期間は1ヶ月。

研修医配置：臨床生理検査部に配置されそのつど指導医のもとで患者の検査診療にあたる。

3-2 到達目標

3-2-1 行動目標

- 1) 生理機能検査部の基本的な技術の意義を理解する。
- 2) 日常臨床に不可欠な生理機能検査技術（心臓や腹部超音波など）の基本を習得する。
- 3) 必要に応じて緊急検査の判断と診療科に状況報告や指示が迅速にできる。
- 4) 患者の情報をすばやく聴取し病態により必要な検査プログラムを組むことができる。
- 5) 患者に適切な説明とサービスを行い、インフォームドコンセントを実施できる。
- 6) CPC,カンファランス、学術集会に参加する。
- 7) 英語論文を読み海外の情報にも興味を持ち、国際的視野をもって診療にあたる。

3-2-2 経験目標

3-2-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- (1) 基本的な身体診察法
 - 1) 迅速な全身の観察ができる。
 - 2) 心臓、血管や胸部の診察ができる。
 - 3) 腹部診察ができる。
 - 4) 神経学的診察ができる。

- (2) 基本的な生理機能検査技術
 - 1) 心臓、血管超音波
 - 2) 腹部超音波
 - 3) 脳波検査
 - 4) 聴力、平衡機能検査
 - 5) 心臓カテーテル検査、心臓血管内視鏡検査
 - 6) 心電図検査
 - 7) 呼吸機能検査

- (3) 基本的手技
 - 1) 初歩レベルの心臓、血管超音波ができる。
 - 2) 初歩の腹部超音波ができる。
 - 3) 脳波検査の基本的レベルの判読ができる。
 - 4) 聴力、平衡機能検査の基本的レベルの判読ができる。
 - 5) 心臓カテーテル検査、心臓血管内視鏡検査の手技を理解できる。
 - 6) 心電図検査や負荷心電図検査を行う事ができ判読することができる。
 - 7) 呼吸機能検査が行える。

3-2-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 虚血性心疾患
- 2) 心臓弁膜症
- 3) 心筋疾患
- 4) 閉塞性動脈硬化症
- 5) 動静脈血栓症
- 6) 脳梗塞
- 7) 糖尿病合併症
- 8) 高脂血症
- 9) 腹部急性疾患
- 10) 肝胆道疾患
- 11) 腎疾患
- 12) 呼吸器疾患

13) 聴力障害

14) めまい

3-2-3 評価基準

生理機能検査の意義を理解し基本技術を習得されたか否かを評価基準とする。

3-3 勤務時間

原則として勤務時間は午前9時より午後5時までであるが、勉強会などは時間外に行われることもあるので随時参加する。

3-4 教育行事

1) 重要症例検討：週1回（水・午後6時）

2) 勉強会：月1～2回・火曜日夕方。

3) CPC：毎月・院内で行われる。

4) 臨床生理セミナー：2～3ヶ月に1回行われ、医師会との共済。外部の講師による講演形式。木曜日夕方。

3-5 指導体制

本プログラムの指導は臨床生理機能検査部指導責任者のもとで各指導医が遂行し、最終的には東邦大学佐倉病院卒後臨床研修管理委員会にて管理する。

4 研修医個別評価

プログラム修了時には各指導医が検査部において必要な診療検査能力が習得されたか否かを評価する。